

34 節「だれでもわたしに従って来なければ、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。」この有名な聖句がどのような意味があるのかを考え、イエス様の命令を受け取っていきましょう。

- I. 「自分を捨てる」とは、自己中心ではなく神中心に生きるということである。
- II. 「自分の十字架を負う」とは、肉なる人を十字架につけることと、キリストに従うゆえに迫害されることである。

- (1) 「自分の十字架を負う」とは、肉なる人を十字架につけることである。

ガラテヤ 5:18~24

肉のわざ：淫らな行い、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、泥酔、遊興。

御霊の実：愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制。

- (2) 「自分の十字架を負う」とは、キリストに従うゆえに迫害されることである。

自分を捨てたら自分がなくなるのではなく、神様が用意しておられる本当に自分に出会うことができるのです。また、自分の十字架を負うことによって、御霊の実を結び、神様の使命に生きる者になります。これが、神が求めておられる真実な生き方です。また、このイエスの命令に従うことが、神に造られた人間としての尊厳を回復する道です。